

令和8年度 和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業

●令和8年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	総合的な学習の時間での学びが、教科横断的な視点、地域の人的資源、物的資源が有効活用されていない場面が見受けられる。	現在14小学校に14名の地域学校協働活動推進員を配置しているが、5中学校での推進員の活動も活性化する。また、地域課題を教育課程に落とし込み、総合的な学習の時間で取組が進められるよう、地域との交流の場を大切にする。	学校と地域が、地域課題や今後取り組んでいきたいことなどを、話し合える場を設けた学校を増やしていく。	総合的な学習の時間を中心に、地域学習を進めることで地域愛を育み、その地域の子どもを育成することができる。	学校と地域による話し合いの機会（学校運営協議会は除く）	2	件	5			
②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	学校運営協議会、青少年育成市民会議等さまざまな会議で議題となるが、具体的な活動につながりにくい課題や高齢化がある。	新規ボランティアを増やすために、教育委員会ホームページ・保護者向けチラシ・市公式LINE・ポスター掲示などの広報に力を入れる。	発信が1度限りになってしまわないよう、継続的に取り組む。	新規ボランティアの発掘とともに、地域と地域のつながりや、地域と学校のつながりが強化される。	地域ボランティアの参加人数	1300	人	1500			
②学校と地域の課題	学校支援ボランティアの確保・育成	学校運営協議会、青少年育成市民会議等さまざまな会議で議題となるが、具体的な活動につながりにくい課題や高齢化がある。	地域のボランティアに加え、人手不足解消&地域でのつながり強化を目指し、学生ボランティアに多く参加してもらえるようにする。	ボランティアを一覧にしたポスター掲示などが効果的だったので、継続して行う。市内中学校&高等学校での説明会を実施する。	地域内の子ども（小学生）と子ども（中学生や高校生）とのつながりが生まれ、好循環が生まれる。	学生ボランティア（中学生・高校生・大学生など）の参加人数	75	人	100			